

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730457

研究課題名(和文) 購買時の会計情報が企業間双方の利益獲得と信頼形成に与える影響に関する研究

研究課題名(英文) The relationships among accounting information, trust and outcomes in inter-firm settings

研究代表者

坂口 順也 (Sakaguchi, Junya)

関西大学・会計研究科・教授

研究者番号：10364689

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：本研究プロジェクトは、組織間マネジメント・コントロールに焦点を置き、会計情報を中心とする情報共有が組織間での信頼形成や利益獲得に与える影響を経験的な手法を用いて明らかにすることを目的としたものである。広範な文献調査、および、データの収集と分析を実施した結果、組織間マネジメント・コントロールにおける会計情報の役割が、パイヤー側だけでなくサプライヤー側からも明らかにすることができた。さらに、これにかかわる研究成果は、国内の学会報告や研究論文としてだけでなく、海外の研究論文として発表することができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to investigate the relationships among accounting information, trust and outcomes in inter-firm settings. To this end, I reviewed prior research including management accounting, strategic outsourcing, marketing and transaction cost economics. Additionally, I collected relevant data and tested some associations. Finally, I published some research papers in Japan as well as in Western countries.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：組織間関係 TC0 取引関連要因 利益 信頼

## 1. 研究開始当初の背景

近年、企業と企業との取引関係を対象とした管理会計研究である組織間管理会計（組織間マネジメント・コントロール）研究が、欧米を中心に盛んに蓄積されている。具体的には、日本企業や欧米企業において実施される目標原価の設定とその達成のための活動である「組織間コストマネジメント」を取り上げた研究、および、取引相手の選択や取引相手との契約に代表される「組織間マネジメント・コントロール・システム」の設計と取引関係要因（不確実性、資産特殊性、規模、複雑性、競争などの要因）との関連性を検討した研究である。これらの先行研究は、取引コスト経済学、戦略論、組織論といった周辺領域の知見を基礎として、特定企業を対象とした事例研究や、大量データを対象とした統計的実証研究などの研究方法を用いて、組織間でのマネジメント・コントロール・システムの設計やその運用の問題を理論的かつ実証的に検討している。そのため、組織間マネジメント・コントロール研究は、企業の内部に限定される傾向にあった従来の管理会計の範囲を拡大し、企業活動のネットワーク化やアウトソーシングの進展といった企業実務のニーズに対応している点で、現代の管理会計研究における重要領域の一つとして、欧米だけでなくわが国においても認識されている。また、こうしたことは、欧米の研究雑誌での特集号の発行や、わが国の研究雑誌でのレビュー論文の登場からも読み取ることができる。

このように、組織間マネジメント・コントロールが国内外で注目される一方、研究開始当初の時点では、次の問題に新たにに取り組む必要が残されていた。

一つは、会計情報の役割に関するさらなる検討である。これまでの組織間管理会計に関する研究では、会計情報を含む多様な情報の役割が文献研究や事例研究を通じて記述されている。しかし、会計学である管理会計が本来取り扱うべき会計情報の果たす役割に関する記述は相対的に不足している。こうしたことは、とりわけわが国の管理会計領域において当てはまる。そのため、包括的な文献調査を通じて、わが国でも、組織間マネジメント・コントロールにおける会計情報の役割について理論的に整理・検討することが求められていた。

もう一つは、取引関係にあるバイヤーとサプライヤーの双方からの検討である。組織間管理会計に関する従来の研究では、バイヤーとサプライヤーの双方にとって Win-Win な関係を構築することが、組織間でのマネジメント・コントロール・システムの設計やその運用にとって非常に重要であると指摘されている。しかし、その多くはとくにバイヤー側の視点によるものである。組織間でのマネジメント・コントロール・システムの設計と

運用の実態を把握するためには、バイヤー側からの検討だけでなく、同様の問題意識を持ちながらサプライヤー側からの検討を併せて行うことが不可欠であった。

そこで、こうした二つの重要な課題に取り組むために、本研究を企画し、実施することとなった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、大別すると次の二つである。一つは、組織間における会計情報を中心とする情報共有の役割について理論的に整理・検討することである。もう一つは、取引関係にあるバイヤーとサプライヤーの双方の視点から、組織間での情報共有、信頼形成、および、成果の関連性などについて実証的に検討することである。なお、これら二つの目的は、理論的な整理・検討をふまえて実証的に検討するというように、相互に深く結びつくものである。

## 3. 研究の方法

本研究は、上記二つの目的を達成するために、文献研究と統計的実証研究という二つの研究方法を利用している。

まず、組織間での会計情報を中心とする情報共有の役割については、先行研究に対する文献研究という研究方法をおもに利用している。具体的には、組織間取引における会計情報の役割について、管理会計やコストマネジメントにかかわる先行研究だけでなく、ロジスティクス管理、サプライチェーンマネジメントにかかわる先行研究に対象範囲を拡大し、網羅的に調査するというものである。こうした調査は、おもに初年度である平成 23 年度を中心として実施している。

とりわけ、この調査では、組織間での取引を管理するための会計情報として近年注目を集める TCO (Total Cost of Ownership) 情報を中心的に取り上げている。ここに TCO 情報とは、購買（販売）に関連するコスト情報全般を意味しており、バイヤー（サプライヤー）が購入（販売）する部品・資材それ自体のコストだけでなく、メンテナンス・コストや品質コストなど購買（販売）活動に関連する多様なコスト情報を含めた概念である。これについては、欧米の管理会計の研究雑誌だけでなく、コストマネジメント、ロジスティクス管理、サプライチェーンマネジメントなどの実務雑誌でも多くの報告が蓄積されているものの、わが国においては十分に紹介されていない。そこで、欧米の研究雑誌や実務雑誌を対象として、TCO 情報という手法がどのように登場し、重要な管理会計実務の一つとして認識されるようになったのか、および、TCO 情報の対象とするコスト項目として、一般的にどのような項目があげられているのか、さらに、品質データや納期

データといった非財務情報としてではなくコスト情報（財務情報）として把握することにより、どのような違いや役割が想定されるのか、といった点について検討している。

次に、組織間での情報共有、信頼形成、成果の関連性などについては、収集したデータを基礎とした統計的実証研究という方法をおもに利用している。最近の欧米では、組織間協働における会計情報を含む情報共有の役割や、会計情報がバイヤーとサプライヤーの双方の利益獲得に与える影響を検討した実証研究が徐々に登場し始めている。しかし、こうした研究は未だ着手され始めたばかりであることから、先行するその他の組織間マネジメント・コントロール研究において重要であると指摘される取引関係要因（不確実性、資産特殊性、規模、複雑性、競争などの要因）や信頼形成などとの関連性が十分に明らかにされていない。そこで、本研究は、組織間マネジメント・コントロールにかかわる先行研究で盛んに取り上げられる取引関連要因を考慮して、会計情報を中心とする組織間での情報共有と信頼形成、および、成果の関連性などといった点について、学生を対象とする実験室実験や日本企業を対象とした質問票調査を通じてデータを収集するとともに、これらの点に関連するその他のデータを含めて統計的に分析している。こうした一連の調査の準備とその実施は、おもに中間年度（平成 24 年度）と最終年度（平成 25 年度）を中心として実施している。

さらに、本研究は、こうした二つの目的を円滑に達成するために、学会での研究報告を定期的に行い、フィードバックを受けている。また、組織間マネジメント・コントロールの研究で活躍する海外の研究者と継続的にコンタクトをとり、多くのアドバイスを受けることで、本研究の進捗度の管理を行っている。

#### 4. 研究成果

上記の研究方法を用いて、本研究は、次のような研究成果を獲得することができた。

一つは、組織間における会計情報を中心とする情報共有の役割にかかわる研究成果である。ここでは、欧米の研究雑誌や実務雑誌を対象として、TCO情報の背景（価格以外の要因の重要性）、TCO情報の対象とするコスト項目（価格、品質、管理、配送、サービス、コミュニケーションなど）、TCO情報の役割（意思決定支援とコストマネジメントへの利用可能性）について、欧米の研究雑誌や実務雑誌での議論を基礎に整理・検討している。具体的には、平成 23 年度に、文献調査の経過を国内学会において報告するとともに、これをふまえて、とりわけTCO情報に焦点を当てた研究論文を発表している。

また、こうした組織間における会計情報を中心とする情報共有の役割に関連して、組織

間マネジメント・コントロール研究の現状と今後の方向性を示した研究報告やその報告要旨、および、企業活動のグローバル化をふまえ、企業活動のグローバル化の中でのマネジメント・コントロール・システム（文化要因がマネジメント・コントロール・システムの設計と利用に与える影響など）に焦点を当てた研究論文も発表している。

もう一つは、組織間での情報共有、信頼形成、および、成果の関連性などにかかわる研究成果である。これについては、とくにバイヤー側の視点に関して、組織間協働とその成果との関連性の程度が組織間での取引モードに影響を受けるという点を明らかにした実証研究や、取引関連要因（不確実性、資産特殊性、規模、複雑性、競争などの要因）が取引相手に対する信頼に与える影響、および、これらの要因と信頼が組織間協働に対して与える影響について検討した実証研究などが当てはまる。なお、これらの研究は、海外の会計学関連の研究雑誌（査読付、掲載済）に発表している。これらの研究は、組織間での取引関係のマネジメントについて、イニシアティブを発揮する立場にあるバイヤーの視点から、会計情報を含めた組織間での情報共有の役割を理解する上で、有益な示唆を提供すると考える。

これに加えて、本研究は、とくにサプライヤー側の視点に関して、取引関連要因、取引相手に対する信頼、組織間での情報共有が組織間協働に与える影響を検討した実証研究を国内の研究雑誌（査読付、掲載決定済）に発表している。本研究を開始した当初、バイヤー側だけでなくサプライヤー側の視点も含めて検討した研究成果が相対的に限定されていたことをふまえれば、バイヤー側から検討した上記の研究成果と共通する問題意識を基礎としたこの研究成果は、組織間でのマネジメント・コントロール・システムの設計と運用の実態をバイヤーとサプライヤーの双方の視点から把握するための具体的な一助になると思われる。

また、本研究は、信頼と組織間ネットワークの構築に関して、日本企業を対象とした追加的なインタビュー調査を実施している。これにかかわる研究成果は、研究ノートとして既に発表している。

なお、本研究を通じて、組織間マネジメント・コントロールの研究で活躍する海外の研究者と継続的にコンタクトをとることによって、文献研究や統計的実証研究にかかわる多くの知識を習得することができた。ここで得た知識を今後も活用するとともに、必要に応じてわが国の関連する管理会計研究者とも共有していきたいと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 7件)

1. 坂口 順也、「組織間協働とその影響要因：サプライヤーの視点」、『原価計算研究』、査読有、第38巻第1号、2014年(近刊)47-58頁。
2. 坂口 順也、「中小企業における組織間ネットワーク構築：S製作所の事例」、『現代社会と会計』、査読無、第8号、2014年、135-140頁。
3. Takaharu Kawai, Junya Sakaguchi, Nobumasa Shimizu, 'Transition of Buyer-Supplier Relationships in Japan: Empirical Evidence from Manufacturing Companies.' *Journal of Accounting and Organizational Change*, Refereed Paper (査読有), 9 (4), 2013, pp.427-447 (DOI:10.1108/JAOC-07-2011-0033).
4. Henri C. Dekker, Junya Sakaguchi, Takaharu Kawai, 'Beyond the Contract: Managing Risk in Supply Chain Relations.' *Management Accounting Research*, Refereed Paper (査読有), 24 (2), 2013, pp.122-139, (DOI:10.1016/j.mar.2013.04.010).
5. 坂口 順也、「グローバル化とマネジメント・コントロール・システム：欧米の研究動向を中心に」、『現代社会と会計』、査読無、第7号、2013年、15-29頁。
6. 坂口 順也・河合 隆治、「組織間マネジメントと管理会計」、『メルコ管理会計研究』、査読無、第5巻第2号、2013年、69-71頁。
7. 坂口 順也、「組織間管理会計と会計情報：TCOに関する議論を中心に」、『現代社会と会計』、査読無、第6号、2012年、1-10頁。

〔学会発表〕(計 3件)

1. 坂口 順也、「組織間協働とその影響要因：供給企業の視点」、日本原価計算研究学会第39回全国大会、2013年8月30日、専修大学。
2. 坂口 順也・河合 隆治、「組織間マネジメントと管理会計」、メルコ学術振興財団設立5周年記念国際シンポジウム、2011年12月3日、名古屋大学。
3. 坂口 順也、「組織間におけるTCO情報の役割」、日本会計研究学会第70回全国大会、2011年9月19日、久留米大学。

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

坂口 順也 (SAKAGUCHI JUNYA)  
関西大学・会計研究科・教授  
研究者番号：10364689

(2)研究分担者

なし ( )

研究者番号：

(3)連携研究者

なし ( )

研究者番号：